

# 報告関係資料

ページ

- 1 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜について・・・(1)
- 2 県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会について
  - (1) 調査研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2)
  - (2) 専門委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2)
  - (3) 審議の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2)
    - ① 第1回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
    - ② 第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
    - ③ 第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
  - (4) 審議の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(3)
    - ① 第1回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
    - ② 第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
    - ③ 第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会
  - (5) 「中間まとめ」の柱立てについて・・・・・・・・・・・・(15)
  - (6) 今後の検討スケジュール(案)・・・・・・・・・・・・(16)

# 1 平成29年度公立高等学校入学者選抜について

事 項		期 日	
募 集 定 員 公 表		平成28年7月1日(金)	
入 学 者 選 抜 一 覧 公 表		平成28年7月1日(金)	
第 1 回 志 願 者 予 備 調 査		平成28年11月1日(火)から11月4日(金)まで	
第 2 回 志 願 者 予 備 調 査		平成28年1月4日(水)から1月6日(金)まで	
前 期 選 抜 連 携 型 選 抜	出 願 受 付	平成29年1月10日(火)から1月13日(金)まで	
	出 願 書 類 受 領 書	平成29年1月10日(火)から1月13日(金)まで	
	受 験 票 等 送 付 一 覧	平成29年1月19日(木)	
社 会 人 特 別 選 抜	学 力 検 査 等	平成29年2月1日(水)	
	結 果 通 知	平成29年2月9日(木)	
	合 格 者 の 発 表		
後 期 選 抜	出 願 受 付	平成29年2月21日(火)から2月24日(金)まで	
	学 力 検 査	平成29年3月8日(水)	
	合 格 者 の 発 表	平成29年3月16日(木)	
第 二 次 募 集	出 願 受 付	平成29年3月17日(金)から3月21日(火)まで	
	学 力 検 査 等	平成29年3月22日(水)	
	合 格 者 の 発 表	平成29年3月22日(水)から3月23日(木)まで	
通 信 制 課 程	一 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	平成29年3月12日(日)から3月17日(金)まで
		合 格 通 知	平成29年3月25日(土)に郵便で発送
	二 期 入 学 者 選 抜	出 願 受 付	平成29年9月4日(月)から9月8日(金)まで
		合 格 通 知	平成29年9月15日(金)に郵便で発送

## 2 県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会について

### (1) 調査研究の目的

平成28年7月25日開催の平成28年度第1回高等学校入学者選抜審議会で、教育委員会から諮問された「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」の事項を専門的に調査研究することを目的とする。

### (2) 専門委員名簿

No.	氏名	現職	備考
1	田端 健人	宮城教育大学教育学部教授	入選審委員
2	村上 裕子	宮城県PTA連合会副会長	入選審委員
3	新山 弘幸	仙台市立長町中学校校長	入選審委員
4	小林 裕介	宮城県総合教育センター所長	入選審委員
5	遠山 勝治	塩竈市教育委員会学校教育課長	
6	猪股 智秋	美里町立南郷中学校教頭	
7	岩井 誠	宮城県田尻さくら高等学校教頭	
8	佐々木 弘晃	北部教育事務所栗原地域事務所副参事	

### (3) 審議の経過

#### ① 第1回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

日時 平成28年8月22日 10:00～12:00

場所 県庁11階 第二会議室

内容 報告 ・ 平成28年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について  
 ・ 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜について  
 ・ 第1回高等学校入学者選抜審議会について  
 審議 ・ 入学者選抜制度の現状と課題について  
 ・ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

#### ② 第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

日時 平成28年9月27日 13:00～15:00

場所 県庁11階 第二会議室

内容 審議 ・ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について  
 ・ 改善の方向性について  
 ・ 中間まとめの柱立てについて

#### ③ 第3回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

日時 平成28年10月25日 10:00～12:00

場所 県庁16階 1601会議室

内容 審議 ・ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について  
 ・ 中間まとめ(案)について

## (4) 審議の概要

### ① 第1回小委員会

- ① 専門委員の委嘱・任命
- ② 小委員会設置の経緯説明
- ③ 座長選出 田端健人委員を座長に選出
- ④ 内容

#### イ 小委員会の今後の進め方について

##### ● スケジュール、公開・非公開の取扱いの確認

- ・ 第2回審議会での「中間まとめ」及び第3回審議会での「答申」に向け、小委員会での審議は平成29年1月までを予定
- ・ 第2回以降の小委員会は、議論の過程で随時入試に関する非公開情報を取り扱う必要があることなどから原則非公開とし、資料・議事内容の公開可能部分を審議会後にまとめて公開することを確認

#### ロ 平成28年度及び平成29年度公立高等学校入学者選抜について

##### ● 平成28年度入試の結果及び平成29年度入試の実施について報告

- ・ 現行入試制度の実施状況についての報告

#### ハ 第1回高等学校入学者選抜審議会について

##### ● 諮問内容、審議会での主な意見、小委員会の設置等

- ・ 第1回審議会における審議内容の報告

#### ニ 入学者選抜の現状と課題について

##### ● 本県入試制度の変遷、現行入試制度の概要、現行入試制度の成果及び課題、他県の入試制度等の説明等

##### <主な意見>

- ・ 本県と同じ前期後期型をとっている都道府県で、本県が最長65日間なのに対し、最短の奈良県が32日間で、半分となっているが現状の詳細を知りたい。
- ・ 東北他県の入学者選抜制度について、青森県の現行制度が一本化であるが、制度の具体について詳しく知りたい。
- ・ 入試期間の長期化に伴い中学校、高等学校の教育活動にどのような影響を及ぼしているのか具体的に知りたい。

#### ホ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

##### ● 改善に向けての基本的な考え方について

- ・ 入学者選抜方針の確認
  - 「高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うもの」
- ・ 今後の入学者選抜を改善していくにあたっての基本的な考え方
  - 受験する立場の生徒にとってより公正かつ適正なものとするべき

- 受験生が自らの将来を展望する契機となり、中学校と高等学校の教育を円滑に繋ぐべきものとすべき
- これからの時代に求められる知識・技術の定着や、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成に繋がるべきものとすべき

● **複数の受験機会の確保に伴う入試期間の長期化について**

(中学校における十分な進路指導と高等学校における教育活動の充実)

<主な意見>

【中学校】

- ・ 前期選抜に合格した生徒と後期選抜を受験する予定の生徒たちが混在する中で、約1か月間授業を行うことになるが、学習指導及び進路指導の難しさがある。
- ・ 各高校でそれぞれ条件が異なるため進路指導の難しさがあり、本来きちんと義務の勉強をしていかなければいけないところに加えて、学校独自検査に向けての事前準備等、入試対策があることで指導の難しさがある。
- ・ 現行の入試制度は、中学校においては、勿論課題も感じているが、概ね好意的な評価が増えてきている。

【高等学校】

- ・ 入試期間中は、生徒からすると、家庭学習日と授業が交互にあり、教育活動の継続性が保てず、効果的に授業が実施できない状況がみられる。
- ・ 小規模の高校になると、教員数が少ない分、入試事務の負担が重く、なおさら授業日が設定出来ないという悩みを抱えている。
- ・ 入試の時期を遅らせる、発表の時期を遅らせる、ということが可能かどうか、他県の入試日程との比較検討が必要ではないか。

【受験生等】

- ・ 前期選抜で合格した生徒たちの学習意欲が低下し、勉強する気力がなくなる点が問題である。
- ・ 地域によっては、貧困家庭も多いことから、公立への進学を望む傾向は強く、今後も複数の受験機会をある程度確保していく必要がある。
- ・ 一本化の方向も良いと考えるが、入試期間を短くしていく中で、受験機会を確保していく道を探っていく必要がある。
- ・ 前期選抜で条件を満たさずに受験できない生徒は、必死に一回のチャンスに向かって頑張っているが、前期と後期を一つにまとめて皆同じ条件で、一回で実施することが望ましい。
- ・ 同一日で複数の種類の入試を行う形を探っていくことで、受験機会を確保しながらの実施が可能になるのではないか。
- ・ 受験生にとっては、多くの機会があり、十分に考えて進路選択するという点では良いが、2月から3月にかけて、中学校では1、2年生の、高校では全学年の生徒の授業時数が確保できないのは大きな問題

である。

- ・ 入試を受ける受験生の事は勿論、併せて在校生の事も考えていかないと、本県の子供たちの力は、なかなか伸びていかないのではないかと。
- ・ 今後子供たちに求められる、思考力、判断力、表現力は、時間をかけないとなかなか伸びない力であり、1か月間授業が継続して出来ないというのは、非常に大きな問題である。
- ・ 勉強以外のところでも、子供たちのいろいろな力を伸ばすことは勿論大切なのだが、あくまでも学校は勉強する所だということを忘れてはいけない。

## ● 特色ある選抜の在り方について

(生徒の多面的な能力を評価するための入試の在り方)

### <主な意見>

#### 【中学校】

- ・ 誰でも出願できるような一般的な出願条件については、条件を満たしていないと思われるような生徒が、自分で条件を満たしていると判断し、出願できることには問題がある。
- ・ 出願条件に対して、生徒、保護者、中学校及び高校のそれぞれに解釈の相違があり、判断に迷うことがある。

#### 【高等学校】

- ・ 県教委では各地を回って保護者対象の入試制度説明会を実施したり高校ではオープンキャンパスを複数回実施したりする等、入試制度に対する共通理解が図られている。
- ・ 中学生にとって、小論文は、出題内容が難しく、ハードルが高いという声も聞いているが、高校側が前期選抜で望む生徒像に合わせて作成していると捉えている。
- ・ 高校入試は、単に高校入学という所だけではなく、最終的に高校三年間でどの程度、どういう力をつけなければいけないかという視点も持って考えないといけない。
- ・ 特色ある選抜を実施することで、高校側が望む生徒が入学し、特色が出せるというプラスの面も当然あるため、総合的に考える必要がある。

#### 【受験生等】

- ・ 前期選抜において出願できる条件を学校毎公表し、条件を満たした生徒が出願できることで、透明性、客観性が確保されている。
- ・ 以前の入試制度の際には、楽しみながら学校生活を送り、徐々に受験にシフトしていくという様子が見られたが、現行入試制度に関しては、中学校に入学した時から受験を意識するあまり、「学校はつまらない」という言葉が、子供たちの口からよく聞かれる。
- ・ 中学生は、入試制度について、家庭でも母親たちが説明するので、1年生の時から内容をよく知っており、先生に評価されるように行動しているように感じる。

- ・ 一部の保護者や生徒に、受験を意識しすぎた言動が見られる。
- ・ 高校入試は、中学生が、将来自分がどのようになりたいか、これからの自分の人生に意味を見出せるような方向に改善すべきである。
- ・ 特色ある選抜は、やはり多面的な能力を測るという事で、そのあらゆるものが評価の対象、あらゆる部分が能力の対象になってしまうという問題点も一面ではある。
- ・ 小中高大と円滑な接続ができるよう、宮城の子供たちの教育をどのように積み重ねていくかということも非常に大事で、そこに高校入試があるという観点でも考えてないといけない。
- ・ 前期選抜では、実際に倍率が7倍になるなど、多くの生徒が不合格となり、傷ついてしまう生徒が多く出ているという現状がある。
- ・ 時期の長期化だけではなく、特色ある選抜の在り方に関わる中学側の作業の膨大化・長期化も考慮に入れていく必要がある。
- ・ 生徒が希望を持って受験出来て、結果を納得して受け止められる様な入試制度にすべきである。

## ● 入試事務の在り方について

(中学校、高等学校の教育活動への負担)

### <主な意見>

#### 【中学校】

- ・ 高校毎に出願できる条件が異なっており、その出願条件を満たしているかどうかの点検作業に係る時間が非常に膨大で煩雑となっている。
- ・ 校外活動での実績等について、生徒、保護者から申告されるものも多く、大会内容、成績等のチェック作業が必要となるが、校外活動は主催している団体が県の競技団体に限らずいろいろあるので、それらをすべて吟味又は把握し、点検する作業に非常に時間がかかる。
- ・ 中学校側その入試事務作業が前倒しになっており、成績の点検作業、調査書作成作業を12月段階で進めなければならないことで、教育活動に大きな影響がある。
- ・ 連日の点検作業等により、教員は多忙を極め、入試期間が長期化するほど、入試事務の煩雑さが増し、一層の多忙化を招いている実情がある。
- ・ 特に中学校3年の担任、学年主任は、本当に大変な長時間勤務を強いられている。

#### 【高等学校】

- ・ 入試事務と在校生指導の時期が重なり、また、学年末定期考査や卒業式等の学校行事もあることから、授業時数の確保が難しい状況である。
- ・ 在校生の授業が継続的に行えず、3年生の進学指導も含めて飛び飛びになることで効果的に教育活動を行えない実情がある。
- ・ 地方の高校では、入試の対象となる中学生の人数、受験生の人数が

中部地区とは違うが、入試事務は全県で変わらないため、規模が小さく、教員数も少ない学校は、より授業日の設定が出来ないという悩みを抱えている。

**【受験生等】**

- ・ 今後子供達に求められる力である、思考力、判断力、表現力については、入試だけでなく学力状況調査等においても課題になっている。入試の長期化により、1か月間、授業時数の確保が難しく、効率的に授業に取り組めないのは、子供たちにとって非常に大きな問題である。

② 第2回小委員会

○ 内容

イ 第1回小委員会審議内容確認

□ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

● 改善に向けての基本的な考え方について確認

- ・ 入学者選抜方針の確認
- ・ 今後の入学者選抜を改善していくにあたっての基本的な考え方確認

● 現行入試制度の成果及び課題、他県の入試制度等の説明等

- ・ 本県の中学校、高等学校における入試事務についての説明等
- ・ 他県入試制度についての説明等

ハ 改善の方向性について

● 複数の受験機会の確保に伴う入試期間の長期化について

(中学校における十分な進路指導と高等学校における教育活動の充実)

● 特色ある選抜の在り方について

(生徒の多面的な能力を評価するための入試の在り方)

● 入試事務の在り方について

(中学校、高等学校の教育活動への負担)

<主な意見>

**【中学校】**

- ・ 競争がより過熱したということを答えている学校も結構ある。
- ・ 前期選抜合格発表から後期選抜出願までの期間を、現行の2週間空けるところは、1週間でもいいのではないか。
- ・ 3学期制の所は現行の入試制度にはもう一つうまく合致しない。
- ・ 入試制度の改善、変更は、今後の学びの質転換と関わる社会に開かれた教育課程という事と連動していく問題で、キャリア教育、志教育等に連動するものだと思う。

**【高等学校】**

- ・ 現行をマイナーチェンジしたり、大きく変えることによって改善を

図ることもできるが、大きく一本化にと変えながら、これまでやってきた取り組みの良い所を受け継ぐやり方が良いのではないか。

- ・ 前期選抜で入学した生徒が、高校生活を引っ張ってくれている。学校側が希望する生徒像を公表して、高い競争率の中で勝ち抜いた生徒というだけあって非常に意識が高いというメリットがある。
- ・ 今後の学力の在り方、学びの質転換とも言われているが、やはり時間をかけて継続的に学ぶという点は確かに大事になってくることから授業日数を確保するためにも、やはりスリム化が良いのではないか。
- ・ 入試で出来ることは限られているので、その中で出来るだけ良いものにしていくという事は重要な視点である。

#### 【受験生等】

- ・ 前期選抜は、倍率が高く、不合格になる生徒を沢山出してしまい、結果的に、それらの生徒は後期選抜で合格するのだけれども、生徒のほとんどは1回挫折を経験して入っている。
- ・ 前期選抜は3教科だけなので、3教科だけに絞る生徒と、後期選抜を5教科で受験する生徒との間に温度差ができる。
- ・ 評定をすごく気にして、学校の条件をクリアするために生徒会役員等いろいろなことをやっている様子が見える。
- ・ 受験機会が3回あるように見えるのだが、実質的には3回の受験機会になっていないのではないかという指摘がある。
- ・ 特に地域性というところも考えて、多面的に入試制度を考えていかなければならず、子どもの家庭環境、経済状況といった事から、機会の確保という視点をどう担保していくかが大事な事である。
- ・ 不合格経験から、却って持っている力を出せなくなるケースもある。
- ・ 失敗試験は、資質・能力を伸ばす為のものだという見方もあるが、自信を失う事で、自分にリミットを持ってしまって、ネガティブな結果となる生徒も多いことから、不合格経験というものは極力無い方が好ましい。

## 二 「中間まとめ」の柱立てについて

### ● 適正な入試期間の設定について

(中学校における十分な進路指導と高等学校における教育活動の充実に配慮すべき)

#### <主な意見>

#### 【中学校】

- ・ 前期選抜合格者については、高校入学までに二か月の空白があり、質問紙調査の結果でも、勉強しない癖がつく等の指摘が複数寄せられており、改善の必要なポイントになってくるのではないか。
- ・ 3年生が最後の最後まで力をつけて高校生活に繋ぐ事を考えると、やはり授業時数は確保すべきである。その際、入試事務で多忙な中で確保は難しいので、一本化というのは非常に魅力的である。
- ・ 公立が一本化した場合に、後期選抜が不合格で、二次募集しもなく

なると、地方の高校しか募集がない現状であり、経済的に困難な家庭の子供たちにとっては、高校進学を諦め、知識も体力も万全ではないままに社会に出ていく子供達が増えてしまう懸念がある。

#### 【高等学校】

- ・ スリム化する方向にはまとまった場合、スリム化するにあたってクリアしなければならない点だが、長期化の防止、多面的な評価、教職員の負担軽減だとすると、青森県の入試制度と同様の改善をしていくとその3つがクリアできるかもしれない。
- ・ 入試期間の長期化という事については、スリム化、短縮化という方向が必要であるという部分では、意見の一致を見ている。
- ・ 一本化によりスリム化するか、或いは、受験機会の確保やこれまでの成果を生かして、前期、後期を継続するが、それをマイナーチェンジしていく事でスリム化を図るのか、更に検討が必要である。

#### 【受験生等】

- ・ 合格発表の後、高校の授業が始まるまでの期間を極力短くして、中学校で学んだ事がそのまま高校で活かされるようにすべきである。
- ・ 地域によっては経済的困難な家庭が沢山あり、受験機会の確保という点においては、現行の3回の確保は必要と思われるが、考えようによっては、学力検査は1回だが、選抜は2回のチャンスがある青森県の制度は魅力的である。
- ・ 小、中、高、大学まで通して社会を生き抜いていく力、社会的自立、職業的自立をはかるような力を付けてやるのが基本的なところである。
- ・ 学校側の視点でスリム化、業務の負担軽減も必要だとも思うが、高校入試というのは、誰の為にやるのかという視点を忘れないで改善する事が必要である。
- ・ 中学生が、入れる学校ではなく、入りたい学校に入れるような方向性、また学力検査の点数だけではなくて、いろいろな取組みや能力を評価できるように、多面的に評価する部分を残していくという方向性は意見の一致を見ている。

### ● 特色ある選抜の在り方について

(生徒の多面的に評価できる要素を盛り込むべき)

#### <主な意見>

#### 【中学校】

- ・ 中学生が主体的に高校を受験するという意識についてはかなり高まっているが、その一方で、入試の為の中学校生活になりかねない部分がみられることには非常に問題がある。
- ・ 入試制度が学校生活を妨げていないか、入試ばかりになって人間的な成長、全体的な成長というものを妨げていないかどうかを見る必要がある。
- ・ 現行の前期、後期で選抜されると、学力や部活動等、その部分だけ

を評価されてしまうので、中学生は、入りたいとかやりたい内容よりも、条件クリアということを優先している現状がある。

#### 【高等学校】

- ・ 多面的な評価については、各高校の自由裁量に委ねる部分、一定程度のガイドラインを行政的に示していくという部分の両方から示していく必要がある。
- ・ 各学校で何が学べるか、何ができるか、将来どのような進路に進めるかということも特色として出すことが大事である。
- ・ 出願できる条件で、そのことができる生徒を集めるということではなく、その高校でできることを示して、一人ひとりの生徒が学力だけではなく、やりたい内容で選ぶような高校の選び方をした方が子供たちには良いのではないか。
- ・ 前期選抜についてだが、学力検査実施、検証経過と受験生の学習意欲の喚起、学習習慣の形成について、一定程度成果があった。
- ・ 青森県の方向性を押すという意見も多かったが、実施教科の他に、現在2回実施している学力検査を一本化するという事も含めて、検討する必要がある。

#### 【受験生等】

- ・ 受験機会が1回になると、レベルを下げて確実な所を選ぶことも否定はできないが、その高校でできることをもっと明確に打ち出して、平等に受験する機会があることで、子供たちは目標をもって学習や学校生活に臨むことができる。
- ・ 学力検査の実施について、やはり5教科の方が良いのではないか。

### ● 入試事務の在り方について

(それぞれの学校教育への負担を少なくすべき)

#### <主な意見>

##### 【中学校】

- ・ 中学校と高校では、部活動の大会に対する捉えに違いがあり、中学校からしてみれば、競技や大会の種類により異なる解釈があることで、不公平感を生んでしまう部分もあるのではないか。
- ・ 部活動については、生徒の人格を形成すると言いながらも、勝利至上主義ではないが、出願条件に全国大会出場等の条件があると、保護者からの期待も大きく、中学校ではやらないと苦情が寄せられる現状がある。
- ・ 出願できる条件で、生徒会活動について打ち出してしまうと、勿論積極的に参加しようという意識には繋がるが、本来リーダー性を持ち合わせている生徒こそ、他の生徒に譲ってしまい出ないで終わってしまうケースが見られる。

##### 【高等学校】

- ・ 入試事務に振り回されて学校の本務が、中学校、高校ともに円滑に出来ないという事は、やはり大きな問題である。

- ・ 出願できる条件については、曖昧さがあり、あらゆるものが評価対象になることで、全部が入試的な要素になって、のびのびとした、自分がやりたいからやるという事ではなく、点数になるからやるという、あまり教育的ではないガイド、リードをしている部分も否めない。
- ・ 出願できる条件の認識の違いがかなり大きく、中高が情報を共有できていない部分もあるので、結果的に高校が認識している条件と違っているケースが生じていることは改善の余地がある。

#### 【受験生等】

- ・ リーダー性について条件に入れている学校が非常に多いのだが、生徒会長をしたからリーダー性があるということではない。
- ・ リーダー性を持っていない生徒が手を挙げて生徒会長になってしまった場合、それを精一杯支えているのが何の役職にも就いていない子供たちである。
- ・ 生徒の頑張りは、調査書に記載するが、やはり生徒会長という記載があれば、高校側の印象が良いという事で、現行制度になってから、手を上げる子供たちが増えた印象がある。
- ・ 本来の教育活動、本当に育てていきたい子供たち、組織、そういうものに繋がっていないのではないかという感じを受ける。

### ③ 第3回小委員会

#### ○ 内容

##### イ 第1回及び第2回小委員会審議内容確認

##### ロ 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について

##### ● 改善に向けての基本的な考え方について確認

- ・ 入学者選抜方針の確認
- ・ 今後の入学者選抜を改善していくにあたっての基本的な考え方確認

##### <主な意見>

- ・ 特になし

##### ハ 中間まとめ（案）について

##### ● 全体の構成について

##### <主な意見>

- ・ 前回の小委員会において検討した柱立てに沿ってまとめられており、特に問題なし。

##### ● 「1 宮城県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題」について

##### (1) 入学者選抜制度の概要

##### <主な意見>

- ・ 特になし

## (2) 現行入学者選抜制度の課題

### <主な意見>

- ・ 前期入試が3教科になっている点、学習意欲の点について、前期合格者と後期受験者で教科への学習意欲に差がある。
- ・ 前期選抜の合格発表から後記選抜の出願まで、2週間程度の一定期間確保しているが、この期間が長いか短いではなく、全体の入試期間が長期化していることで、学校の教育活動に影響があることに課題がある。
- ・ 高等学校の場合は、入試事務について、中学校からの受け入れだけでなく、大学入試に係る生徒の指導もあるので、高校3年生への進学指導が手薄になっている。
- ・ 質問紙調査の結果から、不合格者の多くは同一校に再出願して合格している様子が見える。
- ・ 後期選抜で十分合格できる学力を有する受験生が、前期選抜で不合格となり、自信を失い、志望校を変更する等、不必要な進路変更につながっている場合もある。
- ・ 志望校の変更については、地域的なもの、経済的なもの、学力的なものと同様で、全ての子供たちに当てはまるものではない。
- ・ 面接は客観性を持たせることに課題があるが、生徒を多面的に評価できる1つの要素であり、有効な手段である。
- ・ 行きたい学校ではなく、評定にかなうからこちらを選ぶとか、或いは自分が優秀ということで過大評価して、誰でも受験できる学校を選ぶとか、または評定平均値が高すぎて行けないので、自分の評定平均値に合う学校と選ぶというような動きになっている。
- ・ 前期選抜は必ず出願するものではなく、出願できる条件を満たしている人で、手を挙げたければ出願できる制度であり、1回の受験機会、とりあえず前期で受けて合格できれば後期受けなくて良いというようなことで、結局本意ではない学校に出願している現状があるのだとすれば、おそらくそれはもう前期選抜の趣旨にかなっていない。

## ● 「2 入学者選抜制度に関する調査」について

### <主な意見>

- ・ 特になし

## ● 「1 宮城県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題」について

### (1) 宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査

### <主な意見>

- ・ 入試日程については7割以上の中学校が課題が無いと回答しているが、自由記述では様々な課題が指摘されている。
- ・ 中学校と高等学校では入試日程についての捉え方が異なっていることが分かるが、学校の教育活動や生徒の指導という点で、双方とも全体的な指導を圧迫している現状がある。

- ・ 出願できる条件においては、中学校の7割を超える学校で課題があると回答しており、曖昧だということの他にも課題と認識されていることがある。
- ・ 中学校では、入試事務を除く他の教育活動への影響は特段無いとするものの、課題は無いのではなく、この時期中学校においては入試事務への負担感のようなものの方が、どちらかというといふ捉えであると思われる。

## (2) みやぎ学力状況調査

### <主な意見>

- ・ 特になし

## (3) その他

### <主な意見>

- ・ 特になし

## ● 「3 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方」について

### (1) 改善に向けての基本的な考え方

#### <主な意見>

- ・ 特になし

### (2) 検討の経過及び改善の方向性

#### <主な意見>

- ・ しっかり日程を確保し時間をかけて、良いものにしていこうと取り組んで来たが、実際には不合格になった生徒が改めて同じ学校を受験して、結果として後期選抜で合格している状況があるとすると、不合格の体験をさせるという事と、十分な心理的なケアを行わなければいけないという事など、複数の受験機会を設けた制度の中では必然なものであると考えられていたものが、ある側面から見ていくと、必然なものではないのではないかとと思われ、改めて検討する必要がある。

## ● 「4 改善試案」について

### <主な意見>

- ・ 第一に生徒にとって良いように、それはまた先生にとっても良いようにと、そして、受験する生徒だけでなく、受験しない生徒、或いは大学受験の高校3年生の生徒にとっても良いようにという観点で考えるべきである。
- ・ 日程を短縮すれば、前期で合格した生徒の学習意欲の低下の影響も、少しでも期間を短縮できるという事もある。
- ・ 前期不合格者が出願者のうち44パーセントも出ているという事、その不合格者のうち、後期選抜で同じ高校に再出願して多くの生徒が合格し、最終的には多くの生徒が第一志望の高校に入学している事から、現行制度は生徒の心的負担を考えれば、非効率なシステムになっ

ているとも捉えられ、一本化も1つの手ではないか考えられる。

- 授業日数の確保や入試事務の負担等のことを考慮すれば一本化というのも考えて良いのではないか。
- 一本化とした時に、これまでの前期・後期の要素を盛り込み、選抜の機会を2回設ける等の内容をしっかりと周知し、実質上は今と殆ど変りはないもので実施していくという形になるのが一番良い。
- 他県で、一本化にしている場合、出願の後で、1回だけ受験者が出願先を変更できるという制度があるが、このことも今後どのように考えていくかという所も議論の大きなポイントになる。
- 仮にA案となった場合、倍率が2倍、3倍になって受験した生徒が不合格となり、多くの生徒が後は第二次募集しかないという事態になることは避けなければならない、これはこの先の議論で十分に検討しなければならない。
- これまで全県で特色ある選抜を行ってきたわけだが、それをやめて、普通科以外のところで特色ある選抜をするC案は、かなり急激な変更を加えるという事になり、検討したがあまり現実的ではないと評価している。
- 小委員会としての総意はA案である。

## (5) 「中間まとめ」の柱立てについて

### 1 宮城県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題

#### (1) 現行入学者選抜制度の概要

- ① 入学者選抜制度の変遷
- ② 現行入学者選抜制度の概要

#### (2) 現行入学者選抜制度の課題

- ① 複数の受験機会の確保に伴う入試期間の長期化について
  - ・ 中学校における十分な進路指導と高等学校における教育活動の充実
- ② 特色ある選抜の在り方について
  - ・ 生徒の能力を多面的に評価するための入試の在り方
- ③ 入試事務の在り方について
  - ・ 中学校，高等学校の教育活動への負担

### 2 入学者選抜制度に関する調査

- (1) 宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査
- (2) みやぎ学力状況調査
- (3) その他（県民意識調査・パブリックコメント等）

### 3 今後の県立高等学校入学者選抜の在り方

#### (1) 改善に向けての基本的な考え方

- ① 受験生にとって，より公正かつ適正なものとするべきこと。
- ② 受験生が自らの将来を展望する契機となり，中学校と高等学校の教育を円滑に繋ぐものとするべきこと。
- ③ これからの時代に求められる知識・技能の定着や，それらを活用して課題を解決するための思考力，判断力，表現力の育成に繋がるものとするべきこと。

#### (2) 検討の経過及び改善の方向性

- ① 適正な入試期間の設定について
  - ・ 中学校における十分な進路指導と高等学校における教育活動の充実に配慮すべき
- ② 特色ある選抜の在り方について
  - ・ 生徒を多面的に評価できる要素を盛り込むべき
- ③ 入試事務の在り方について
  - ・ それぞれの学校教育への負担を少なくすべき

### 4 改善試案

- ・ 今後の議論の材料とすることを目的として，現時点における試案を複数作成。

## (6) 今後の検討スケジュール(案)

年度	月	
平成28年	7	<p><b>第1回入選審(7/25(月)10:00~12:00)実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諮問① (平成30年度入試 方針)</li> <li>・ 諮問② (平成30年度入試 日程)</li> <li>・ 諮問③ (今後の入学者選抜の在り方について)</li> </ul>
	8	<p>小委員会① (8/22(月)10:00~12:00) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論点整理, 今後のスケジュール等</li> </ul>
	9	<p>小委員会② (9/27(火)13:00~15:00) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間まとめ素案検討</li> </ul>
	10	<p>小委員会③ (10/25(火)10:00~12:00) 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間まとめ (案) 検討</li> </ul>
	11	<p><b>第2回入選審 (11/8(火)13:00~15:00) 本日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答申① (平成30年度入試 方針)</li> <li>・ 答申② (平成30年度入試 日程)</li> <li>・ 中間まとめ (今後の入学者選抜の在り方について)</li> </ul>
	12	<p>小委員会④ (11月中旬) 予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答申骨子</li> </ul> <p>小委員会⑤ (12月上旬) 予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答申素案検討</li> </ul>
平成29年	1	<p>小委員会⑥ (1月中旬) 予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答申 (案) 検討</li> </ul>
	2	<p><b>第3回入選審 (2/22(水)10:00~12:00) 予定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答申② (今後の入学者選抜の在り方について)</li> </ul>
	3	